

猫の歴史

ペットとして爆発的な人気を博している猫ですが、ここ数年で犬の飼育数を上回り更に年々格差が広がっているというデータがあります。その要因の一つとして犬より飼育しやすいという面があるみたいです。そんな猫の起源について調べてみました。

猫の起源については、いくつかの説がありますが、最も広く受けられている説は、現代の家猫は約9,000年前、主に中東の地域で野生の猫から家畜化されたというものです。家猫の祖先は、リビヤヤマネコという野生の猫で、この種は現在でもアフリカや中東に生息しています。

リビヤヤマネコは小さな哺乳類を狩る能力が高く、そのため農業が発展し始めた地域で害獣（例えばネズミ）を捕食する役割を果たしました。約9,000年前、中東地域で農業が発展し、穀物が貯蔵されるようになると、食料を狙うネズミなどの害獣が増加しました。このような害獣を捕らえるために、リビヤヤマネコが人間の住居に引き寄せられ共存が始まりました。猫がネズミを捕らえることで、人間にとって有益な存在となり、自然に人々との接触が増え、猫の家畜化が進んだと考えられています。

猫は犬のように積極的に訓練されることはありませんが、自然と人間の周りで生活するようになり、その後猫と人間の関係は徐々に深まっていきました。人間が猫を飼うことで猫も食料を得ることができ、その後猫は家畜化して定着しました。

古代エジプトでは猫は神聖視され、バステトという猫の頭を持つ女神が崇拝されていました。猫は守護の象徴として、また魔除けとして重要な存在となり、さらにエジプトから他の地域へも猫が広がっていきました。このように、猫は生活環境に自然と適応し長い時間をかけて家畜化された動物です



鎌野

花粉症

今年も花粉症の季節がやってきた、我が勝亦家でも6人中3名が確実に花粉症で、2名が多分花粉症である。今年82歳になる母をだけがおそらく、花粉症ではないと思われる。現在は杉の花粉がようやく終焉を迎える頃だが、そうすると直ぐに檜の花粉の飛散が始まる。前にも書いたが、杉の花粉よりも檜の花粉の方が圧倒的に大きいため、花粉症の症状も酷くなりがちである。そして私は、杉よりも檜の花粉の方がアレルギー症状が酷い。これから5月連休明けまでは、辛い日々が続く。

3・4月は総会等が多く、懇親会も多いのだが、お酒を飲むと花粉症の薬が効かなくなるので、お酒は飲まないようにしている。なので私に宴会で会っても、ぜひともお酒は奨めないで下さいね。だいたいコカ・コーラ飲んでますからね。糖尿病だけどね。

英樹



配り

第310便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 御殿場市中山518番地

田んぼには雨の波紋にアメンボウ日本の風景穏やかにあれ
ねがみともみ



北風の如きトランプに旅人の心許なし吹き飛ばさるな
勝亦 りつ子



受賞

毎年6月の中旬から7月初旬にかけて御殿場市の二岡神社周辺に舞うヒメボタルという陸生ホタルの保護活動をしている、ということはこちらで何度か記事にしていたと思います。活動資金は訪れる方からいただいた環境保全協力金と企業などの団体への助成金事業などに申し込み、今年度は住友理工(株)さんの「一般財団法人 住友理工あったか基金 第7回 夢・街・人づくり助成金 in 裾野、御殿場、長泉」という助成事業で採択していただきました。この事業は「みんなが住みたい街・住みたくなる街」をテーマに、「ダイバーシティ」「市民活動」「青少年の育成」「自然環境との共生」「まちづくり」において、市(町)民活動に取り組む団体の活動を対象にした助成金交付制度で、御殿場ヒメボタルの会では「自然環境との共生」をテーマにした活動でお力添えをいただきました。昨年の事業報告を終えて先日、本年度採択された事業の中から優秀事業団体ということで表彰されることになりました。僕らの活動が優れた地域貢献活動として評価していただいたことに大きな喜びを感じました。これもご協力いただいている皆さんのお力のおかげだと思います。本当にありがとうございます。

今年も暖かくなってきて、そろそろ生息地の環境整備の季節になります。森の中の伸びすぎた笹などの下草を刈り、観察会に向けて観察路の整備などを行います。また飛翔シーズン前にはヒメボタル撮影セミナーや御殿場駅前の富士山市民のサロンけやきかんにて御殿場ヒメボタルの会の活動報告と写真展も開催予定です。なぜか御殿場市民の方の来場が少ない二岡神社です。ぜひ地元の方々に観てもらいたいと思います。来場お待ちしております。

柳田敏和



春はあけぼの



現在、二十四節気の『春分』:七十二候の「桜始開」(さくらはじめてひらく)3/25~3/29「雷乃発声」(かみなりすなわちこえをはつす)3/30~4/3。となります。春分、太陽が真東から出て真西に沈み昼夜の長さがほぼ等しくなる日であり、名実ともに‘春’となります。いいですね、‘春’。寒い冬に耐えて暖かい春が来る。寒さが厳しいほど・・・とは人生そのもの。厳しすぎて辛いときもありますけど。鬱々としていた心も体も春の気配だけで前を向きます。ガチガチの体も解れていきます。花粉は横に置いておいての話です。

‘春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる’

『枕草子』の書き始めです。平安時代の歌人、清少納言の随筆です。NHKの大河ドラマでファーストサマーウイカさんが演じられました。これを現代語でポップに訳すと。

‘春は明け方がいいわね。だんだんと白んでいく山際(やまぎわ)の空が少し明るくなって、紫がかっている雲が細くたなびいているのがいいのよ’

となるそうです。そうだねえ〜と共感します。ん？これに反応するのは年齢ですか？

子供のころ、なんとなく習った、言葉も大人になると、また違った趣を感じるのは、やはり年齢だろうか。

最近頂いた松尾芭蕉の本の、奥の細道の冒頭、

月日は百代(はくたい)の過客(くわかく)にして、行きかうふ年も又旅人成。

現代語ですと「月日は二度と戻ってこない旅人であり、行き過ぎてくる年も同じ」。何百年経っても、心に響くものがあるのは、面白いなあ。と、全文覚えてみようかと思いましたが、思っただけで終わらないように・・・。

好奇心は年齢関係なく持っていたいものですが、実行してこそ。と、ああ耳痛い。

ねがみ

しいたけ

「キノコ増殖バグの法則」をご存知だろうか。自宅のしいたけのホダ木からポコポコと椎茸が出始め、そういえばホダ木をいつもそのまま北側の壁に立てかけたままにしていたけれど、栽培方法はよくわからないなと検索すると、先のワードに行き着いた。ゲームの「スーパーマリオ」に登場する現象のように、ホダ木をハンマーで叩くと収穫量が2倍に増えるという現象が、現実世界で発見されたらしくネット界限では話題になったらしい。

椎茸は低温刺激と物理的な刺激を与えると発生が活性化する。叩く時期は、椎茸の発生約2週間前に10回叩く。叩くところは木口より樹皮のところ。強く叩きすぎると樹皮が剥がれてしまうので軽く手で叩くくらいで良いらしい。その他、風の通りを良くし、適度に散水、2ヶ月に1度天地返しを行うと良いそう。もう、椎茸出てきてしまったけど、ひっくり返して、まだ出ていないところを叩いてみようかしら。



祥子